

研究の経過と概要

1 東山梨地区 福祉教育研究部会のとりのくみ

本地区の福祉教育研究部会は、『学校教育における福祉教育のあり方』を研究主題に設定し、「福祉教育」をどのように扱い、子どもたちに何を学ばせるか、理論研究、福祉施設の見学、実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育というと、障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう、調べたり体験したりする、交流するなどの実践が行われてきた。数年前より、教科や領域にとらわれず、「ともに生きる」ということを基調とし、授業実践してきた。

※ 過去の研究内容

2008 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（菱山小：耳の不自由な人の生活について 牧一小：笛吹荘のお年寄りと交流しよう）

学習会（「福祉と福祉教育のあり方」山梨市社会福祉協議会 小林先生）

2009 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（塩山北小：つくろう！ハッピーライフ【総合】 塩山南小：あなたのためになったことがうれしい：資料『うれしい朝』【道徳】）

学習会（「小学校における福祉教育のすすめ方」義務教育課指導主事 深澤先生）

2010 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（日下部小：聴覚障害について考えよう【総合】）

松里小：お年寄りも幸せに暮らせる社会について考えよう

～自分たちにできることとは？～【道徳】

施設見学（山梨市 そだち園）

2011 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」6年【総合】）

玉宮小：「思いやる心を伝えよう」3年【道徳】）

施設見学（山梨市 ハロハロー番館・二番館）

2012 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（松里小「レッツ・トライ・ボランティア」【総合】）

後屋敷小：相手の気持ちを考えて「こうえんのおにごっこ」【道徳】）

学習会「福祉教育にかかわる学習会」講師：甲州市社会福祉協議会 手塚剛史さん

2 今年度の部会研究テーマ

「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

3 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

5月 8日（水） 役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定

5月15日（水） 年間計画の確認・決定 実践報告（各校）

6月 5日（水） 理論研究 研究授業の授業案検討（三富小：藤波）

- 8月 5日（月） 研究授業の授業案検討（三富小：藤波）
 施設見学・体験学習（山梨市社会福祉協議会 点字学習）
- 8月30日（金） 統一授業研究会（三富小：藤波）
- 10月 2日（水） 実践報告（各校）
- 11月27日（水） 研究授業の授業案検討（日下部小：丸山）
 実践報告（各校）
- 1月15日（水） 研究授業の授業案検討（日下部小：丸山）
- 2月 5日（水） 統一授業研究会（日下部小：丸山）
- 2月15日（水） 成果と課題・来年度に向けて

4 研究の課題

今年度は、教科の枠や「福祉教育と言えは障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず、さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は、以下の通りである。

- ①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず、そこで学習した考え方や生き方を、日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。
- ②「福祉」のとらえ方について、「～してあげる」という考え方よりも、「ともに生きる」ために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。
- ③立場の違いはあっても、自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである、という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ、研究部会に所属している部員のそれぞれの学校からの実践報告や授業案づくりが行われ、共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

5 研究の仲間

◇指導助言者

中村 達也（塩山南小学校）

◇部会員

藤波 貴（三富小学校）

雨宮 正（塩山北小学校）

三森 明美（神金小学校）

三森 敏彦（玉宮小学校）

小河真由美（松里小学校）

飯島 典子（松里小学校）

広瀬 美穂（後屋敷小学校）

相澤 京子（日下部小学校）

丸山 香織（日下部小学校）

新谷 雅美（日下部小学校）

◎はじめに

本部会では、学校教育の中で福祉教育をどう扱うかという研究を進めてきている。今年度の実践の1つとして、総合的な学習の時間の取り組みを通して、体の不自由な方や高齢者などの生活について調べたり、体験したり、話を聞いたりすることで自分がどのようにかわることができるのか考えさせていきたい。そして、自分にもできそうだという思いをもたせたい。自分からかわろうとすることで、友だちや仲間、いろいろな人たちの思いに気づき、共に生きていける子どもになってほしいと考える。

第4学年 総合的な学習の時間 指導案

授業者 藤波 貴

1. 主題名 みんないっしょに生きている

2. 主題設定の理由

子どもたちは、目や耳が不自由な人、四肢が不自由な人、高齢者などの方々について、外見やしぐさ・動作などから感覚的に不自由さ認識することができ、福祉と結びつけることができる。福祉＝体の不自由な人のことと捉えがちになってしまうが、福祉とは「すべての人の幸せ」であり、単に障害のある人や高齢者のために何かしてあげたり、ボランティアに取り組んだりすることだけではない。すべての人が暮らしやすくなるように働きかけたり、気持ちに寄り添えたりすることで、よりよく暮らすことができ幸せへとつなげていける。

この学習では、体の不自由な人の生活の様子、生活しやすくなるための道具や施設・設備などを調べたり、体験したりすることから共に生きるために自分にできることをしようという気持ちをもたせていきたい。子どもたち一人一人が課題を設定し、その課題を解決するために調べたり、体験したりしたことを発表し合うことから、自分にもできることを知り、やってみようという意識を高めていきたい。

体の不自由な人に対してだけでなく、困っている人に声をかけて互いに気持ち良く生活できるようにすることを願い本主題を設定した。

3. ねらい

◎体の不自由な人の生活について知り、自分にできることをやってみようとするボランティアの意識をもつことができる。

〔課題設定能力〕

- ・体の不自由な人の生活に関心をもち、自分なりの課題を見つけることができる。

〔課題解決能力〕

- ・自分の力で調べたり、グループで協力して調べたりすることができる。
- ・調べたことについて考えて判断し、課題をよりよく解決することができる。

〔主体的、創造的な態度〕

- ・調べたり体験したりしたことを分かりやすくまとめ、発表しようとしている。

〔自己の生き方〕

- ・ボランティアの意識をもち、これからの生活に役立てようとしている。

4. 児童の実態

男子8名、女子1名、計9名のクラスである。友だち同士で声を掛け合うことが多いが、

乱暴な言葉や互いに指摘や非難のしあいになってしまうことも多い。また、特定の子どもの言葉や行動が優先され、物事が進んでしまうことがあり、かかわり合いが固定化している。

本校では、敬老の日の手紙を全校児童で取り組んだり、世代間グランドゴルフやお年寄りと交流する福祉の集いなどの取り組みがあり、高齢者とのかかわりがある。また、校舎内にスロープや多目的トイレがあることから、子どもたちはバリアフリーについて普段の生活の中で知っている。

事前調査から子どもたちの生活環境の中で、体の不自由な人や高齢者と接する機会は少ない。このことから、何か手助けした経験もない状況である。体の不自由な人に対して、「かわいそう」「うまく動けなくて大変そう」と思っている子どもたちが多い。

5. 指導計画（全20時間）

	学習活動	教師の支援	評価規準
つ か む ⑤	①「福祉」とは、なんだろう。 ・「福祉」について調べる。 ・「福祉」について調べたことを確認し合う。 ②テーマを設定しよう。 ・ウェビング ・ウェビングから調べたいことやもっと詳しく知りたいこと、体験したいことを書き出す。 ・テーマを設定する。 ・学習の計画を立てる。	・「福祉」について、どんな本を使えば調べられるか支援する。 ・調べたことをもとに、「福祉」について理解させる。 ・活動が進んでいる児童のウェビングを取り上げて活動のイメージをもたせる。 ・学習活動のおおまかな流れをつかませる。	[主体的、創造的な態度] ・調べて分かりやすくまとめ、発表しようとしている。 [課題設定能力] ・体の不自由な人の生活に関心をもち、自分なりの課題を見つけることができる。
ふ か め る ⑫	③自分のテーマを調べたり、くわしい方に聞いたりする。 ○図書室やインターネットで、目の不自由な人の生活の様子に関することを探して、調べる。 ・点字や点字ブロックについて調べる。 ・盲導犬のことを調べる。 ○図書室で、足の不自由な人の生活に関する本を探して、調べる。	・目が不自由な人の生活の様子に関わる本やインターネットのサイトを探して、調べ活動を進める。 ・足が不自由な人の生活の様子に関わる本やインターネットのサイトを探し	[課題解決能力] ・自分の力で調べたり、グループで協力して調べたりすることができる。 ・調べたことについて考えて判断し、課題をよりよく解決することができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすのことを調べる。 ④体験したり，ゲストティーチャーの話を聞いたりする。 ○目の不自由な人 <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクをして歩いてもみよう 廊下（平地） 階段（段差） ・ゲストティーチャーのお話を聞く（本時） ・点字を打つ 石原さんにお礼のメッセージを点字で作成する。 ○足の不自由な人 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験 平地 階段（段差） スロープ ○高齢者 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験 	<ul style="list-style-type: none"> て，調べ活動を進める。 ・体験するときに，危険なことをしたり，ふざけたりしないように注意する。 ・ペアやグループでサポート役も経験させる。 ・けがをしないように安全に気をつける。 ・白杖の使い方を指導する。 ・盲導犬を驚かさないようにする。 ・練習シートを使って，打つ点を確認させる。 ・ペアやグループでサポート役も経験させる。 ・車輪に手をはさんだり，スロープを逆走したりしないように安全に気をつける。 ・ペアやグループでサポート役も経験させる。 ・安全に気をつける。 	<p>〔主体的、創造的な態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり体験したりしたことを分かりやすくまとめようとしている。
<p>ひろげろ ⑤</p>	<p>⑤まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり，体験したりしたことを分かりやすくまとめる。 <p>⑥発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級内で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットで調べたことをそのまま書き写すのではなく，大事なところをまとめるようにさせる。 ・同じ課題の発表では，同じところや違いに気をつけて聞くようにさせる。 ・違う課題の発表では，質問ができるようにさせる。 	<p>〔主体的、創造的な態度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり体験したりしたことを分かりやすくまとめ、発表しようとしている。

※福祉教育に関連した学習

5月13日（月）道徳「オトちゃんルール」 みんなのどうとく（学研・山梨県版）

5月27日（月）道徳「つばさを下さい」 みんなで考えるどうとく（日本標準）

9月上旬 敬老の日の手紙を書く。（家の近くの方に届ける）

国語「手と心で読む」

10月 7日(月) ふれあい道徳(全校)

11月 1日(金) 地域の「福祉の集い」への参加(全校)

6. 本時の学習

(1) 日時 2013年8月30日(金) 14:00~15:00

(2) 場所 三富小学校 図工室

(3) 題材 石原テルさんのお話を聞こう。

(4) 目標 目の不自由な人の生活の様子や盲導犬のことを知る。

(5) 展開

過程	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点・方法
つかむ(5分)	①アイマスク体験をふり返り、感じたことを確認する。 ・見えなかったからこわかった。 ・階段や段差でつまずいた。 ・目の不自由な人は、大変だと思った。	・体験した後にワークシートに書いたことを見返して、感じたことを確認させる。 ・体験して疑問に思ったことについても取り上げる。 ・音楽室コース、階段コースの写真から、サポートの仕方どちらが安全だったか、確認する。	
ふかめる(40分)	②目の不自由な方のお話を聞き、生活や盲導犬のことを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">石原さんのこと、もうどう犬のことを知ろう</div> 《石原さんのお話を聞こう》 進行(目の不自由な人・盲導犬グループ) 1. はじめの言葉 2. 先生のお話 3. 石原さんのお話 ・生活の様子について ・盲導犬のこと ・こんなときには、こうしてもらいたい 4. 質問 5. 感想発表 6. お礼の言葉 7. 終わりの言葉	・進行のタイミングや声の大きさなどを助言して、支援する。 ・盲導犬を驚かせないように事前に注意しておく。 ・集中して聞けるように机間指導する。	[課題解決能力] ・お話を聞いて、課題をよりよく解決することができる。 【学習の様子】
ひろ	③石原さんの話を聞いて、分かったことや感じたことを発表す		[主体的、創造的な態度]

げ る （ 1 5 分 ）	る。 ・ワークシートへ書く。 ・発表する。 ④学習のまとめをする。	・ワークシートに書く時間を確保する。 ・生活の中で困ることや盲導犬のことを思い出させる。 ・ワークシートに書いたことを読ませる。	・お話を聞いて、分かりやすくまとめ、発表しようとしている。 【ワークシートへの記入】 【発表の様子】
---------------------------------	--	--	--

7. 本時の評価

目の不自由な人の生活の様子や盲導犬のことを知ろうとしている。

（評価の方法：学習の様子，ワークシート）

8. 資料

（1）事前調査の結果

①あなたの身の回りに体の不自由な人や高齢者がいますか。

はい 3人 いいえ 6人

②それは、だれですか。また、体が不自由な様子を書いてください。

・近所のおばちゃん 腰がすごい曲がっている

・近所のおばあさん

・新聞を配っている人 目が片方見えない

③体が不自由な人が使っている物（道具）やせつび，生活で工夫していることなど，知っていることがあったら書きましょう。

・棒，つえ5 ・（電動）車いす5 ・スロープ ・分からない

④体が不自由な人（障害のある人や高齢者）について，いつもどんなことを思っていますか。

・歩き方が変でかわいそう。 ・うまく動けなくて大変そうだな。

・体が不自由でかわいそう。 ・かわいそうだな。

・目が見えなくてかわいそう。

・障害があるとうまく歩いたりできないし，文字もよく見えない人がいるから障害がある人はかわいそう。

・テレビで目の不自由な人を見ると，かわいそうです。

無回答 2

⑤今までに，体が不自由な人（障害のある人や高齢者）の手助けをしたことがあったら書きましょう。

・ない9（会ったことがない）

（2）ワークシートの記述

【アイマスクをして歩いてみよう】第2次第5～7時

①音楽室コース；教室～音楽室～教室 （音楽室は教室と同じ階で，段差がない）

②階段コース；教室～階段の踊り場～教室

○アイマスクをして歩いたときに，感じたことを書こう

・階段を歩いたときにアイマスクをしていて怖かった。

- ・目が見えないので段差が分からなかったり、階段が難しかったです。
- ・ドアの方だと思っていたら、反対側を向いていた。
- ・階段を歩いたとき、杖が使いにくかった。目が悪い人は、大変だと分かりました。
- ・全然見えなかったの、ちょっと怖かったです。
- ・どこがどこか分からなかった。階段を上るのが難しかった。
- ・アイマスクをして歩くのは、とても難しかったし、真っ暗で何も見えませんでした。目が見えない人は大変だなと思いました。
- ・何も見えなくて、(2回目の) 階段(コース)の時怖かった。
- ・サポートの人が手をつないでくれて安全にできました。でも右左だけ言って階段を下りたら危ないと思いました。

○サポート役をして、感じたことを書こう

- ・1回目(音楽室コース)は声だけでサポートしていたけど、2回目(階段コース)は声とか手をつないでサポートできた。
- ・歩いている人が、目が見えないので手振りで教えられないので難しかったです。
- ・あまり言葉が伝わらなかった。(1回目の音楽室コース)
- ・右左、後ろ、前や方向を伝えるのが難しかった。
- ・ちょっとどうやればいいのか難しかったです。
- ・サポートの仕方があまり分からなかった。
- ・サポートは難しかったです。
- ・指示したことをアイマスクをしている人は守ってくれた。
- ・アイマスクをしている人は、何も見えないから手をつないで動かさせて、アイマスクをしている人が安全にできてよかったです。

【石原さんのお話を聞こう(視覚障害の方)】第2次第8時(本時)

○石原さんのお話を聞いて、分かったこと

- ・盲導犬は、英語で訓練していること、ワンツーと言うとトイレをするということを知りました。目の不自由な人が大変なことは、物を置いた場所が分からなくなってしまったときだと知りました。
- ・物を置くと、どこにあるのか分からなくなってしまったときが一番大変だということが分かりました。
- ・盲導犬は、トイレが4時間ずつと知りました。
- ・目が見えないのに、いろいろなことができてすごいと思いました。盲導犬がすごく大きいと分かりました。
- ・目が見えなくなると、すごく困るということが分かりました。
- ・目が見えないと大変ということが分かってよかったです。
- ・物を置いた場所が分からないと知りました。あと盲導犬は、英語じゃないとだめだと知りました。
- ・物を置いたらどこに置いたか分からなくなるということがとても分かった。
- ・物を置いたらどこに置いたか分からなくなるということ。

○お話を聞いた感想

- ・盲導犬が訓練の中で、ひどいことをわざと受けるということを知りびっくりしました。

- ・ぼくはアイマスクをつけてやってみたけれど、ずっと続くと大変だと思いました。
- ・盲導犬が、信号で止まることを知りました。
- ・目が見えないと、困ると分かりました。
- ・置いたものが分からなくなり困ることが分かりました。お金を触っただけで分かるということがすごいと思いました。
- ・目が見えないと自分が知らないところに行けないということが分かりました。
- ・私はいろいろなことが分かりました。
- ・英語で盲導犬（ヨーデル）に教えるということもよく分かった。
- ・パソコンでメールをしている人が40人もいるなんて、すごいなあと思いました。

【車いすに乗ってみよう】第2次第9時

①車いす3台

②正面玄関の段差とスロープ

○車いすに乗って、感じたことを書こう

- ・ちょっと操作が難しかったけど、だんだんどう動くのかが分かった。足の不自由な人がこんなに変だということが分かりました。坂でやるときすごく動くと思った。
- ・意外に疲れました。坂が大変でした。
- ・回るのが難しかった。
- ・車いすの操作で、曲がるのが難しかった。
- ・坂のところを上るとき、手が疲れました。
- ・すごく操作が難しかった。
- ・車いすに乗って、車いすは大変なんだなあと思いました。
- ・足が不自由だと「やがなあ」と思った。車いすがちょっと難しかった。
- ・坂道の時後ろに行きそうになったら、サポートの人が助けてくれてうれしかったです。助けてもらえなかったら危なかった。

○サポート役をして感じたことを書こう

- ・持ち上げるときすごく手が痛かった。
- ・人が乗るとけっこう大変でした。
- ・車いすが重かった。
- ・A君やB君が上手だったので、あまりやる時がありませんでした。
- ・カーブのところが難しかった。
- ・車いすを持ち上げるのに重いのが分かりました。
- ・車いすに乗っている人が、うまかった。
- ・サポートをして、車いすに乗っている人が危ないとき助けてあげた。

【点字でお礼のメッセージを書こう】第2次第10時

○点字を打った感想を書こう

- ・点字を打ったとき、ちょっとずれたと思ったらずれてなくてよかった。とても難しかった。
- ・点字はちゃんと力を入れないと打てないので難しかったです。
- ・点字は難しかったけど、楽しかったです。
- ・点字は思ったより簡単で、おもしろかったです。もっと打ってみたいと思いました。
- ・ぼくは点字を初めて打ったけど、楽しかったです。でも、難しいところもあったけど、や

れてよかったです。

- ・点字は、すごくまちがえちゃって難しかったです。
- ・点字を打つのは初めてで、こんなに難しいと思わなかったのでびっくりしました。
- ・点字を打つのが難しかった。どこにどうやって打つのか初めて知ってよかった。まちがえそうになったけどまちがえなかった。
- ・どこに打つのか、持ち方はどうなのかわからなくて、すごく難しかったです。でも、だんだん慣れてくると、打つ場所が分かって楽しかったです。

9. まとめ

(成果)

- ・石原さんが子どもたちに伝えたいことが多く、聞くことが中心になってしまった。用意していた質問ができてよかった。
- ・石原さんがハンディーに立ち向かい、今挑戦していることや生きがいについてふれることができたことがよかった。
- ・実際に生の声を聞くことで、生活の中での困り感や工夫を学ぶことができた。
- ・盲導犬は工作中だから、触ったり呼びかけたり、食べ物を与えないということを事前に指導しておいたことで、子どもたちも盲導犬を刺激することがなくてよかった。

(課題)

- ・子どもたちが自主的に、プログラム作りや飾りづくりをした。心をこめた飾りがわかるような説明をしたらよかった。
- ・本時の中では少し恥ずかしがっていたが、感じたことを今後伝えられたらよい。
- ・三富小学校では全校の福祉集会でも石原さんのお話を聞く機会がこれからあるので、今回の学習を生かしていきたい。
- ・自分たちが調べたことを互いに伝え合い、広める活動により、互いの考えや思いの違いに気付くことができる。